



くしろビジョン

次世代に引き継ぐ「くしろの将来像」

10年・20年前に今のくしろを想像したことはありますか？

そして、今、10年・20年後のくしろを想像したことはありますか？

未来のくしろを想像しそこに自分の思いを馳せることは、

それぞれの心の中に新たな目標を創り、その目標は行動の源になることでしょう。

平成20年12月

社団法人 釧路青年会議所

ご挨拶

青年会議所とは、20歳から40歳までが所属し、明るい豊かな社会の創造に向け活動・運動を展開している団体であり、その組織は全道・全国に存在し、互いに切磋琢磨しながらまちづくりに励んでおります。

(社)釧路青年会議所は、1952年の創設以来、時代の課題に目を向け、未来を切り開くために地域の皆様と共に考え・行動してまいりました。

現在も約100名のメンバーが所属し、高い志と強い信念を持って、まちづくりに取り組んでいるところであり、創立から現在までの永きに亘り地域の皆様とともにくしろのまちづくりに関わってこれたことに感謝を申し上げる次第でございます。



社団法人 釧路青年会議所
第57代理事長 中島谷友一郎

さて、2008年度(社)釧路青年会議所は、

「忠勇義烈！切磋邁進！謙虚な心が『人』を『まち』を創る～未来を切り開く志士となれ～」をスローガンとして活動・運動を展開してまいりましたが、そのスローガンの下、政策室くしろビジョン委員会は、今後のくしろの目標となるべき10年・20年後の「次世代に引き継ぐくしろの将来像」として、この『くしろビジョン』を策定いたしました。

経済・社会の両面において閉塞感が漂う現在のくしろにおいて、今こそ、希望を持てる将来像＝ビジョンを創り出し新たな目標とすることで、地域住民が愛し誇りを持てるくしろを実現する必要があると考えております。

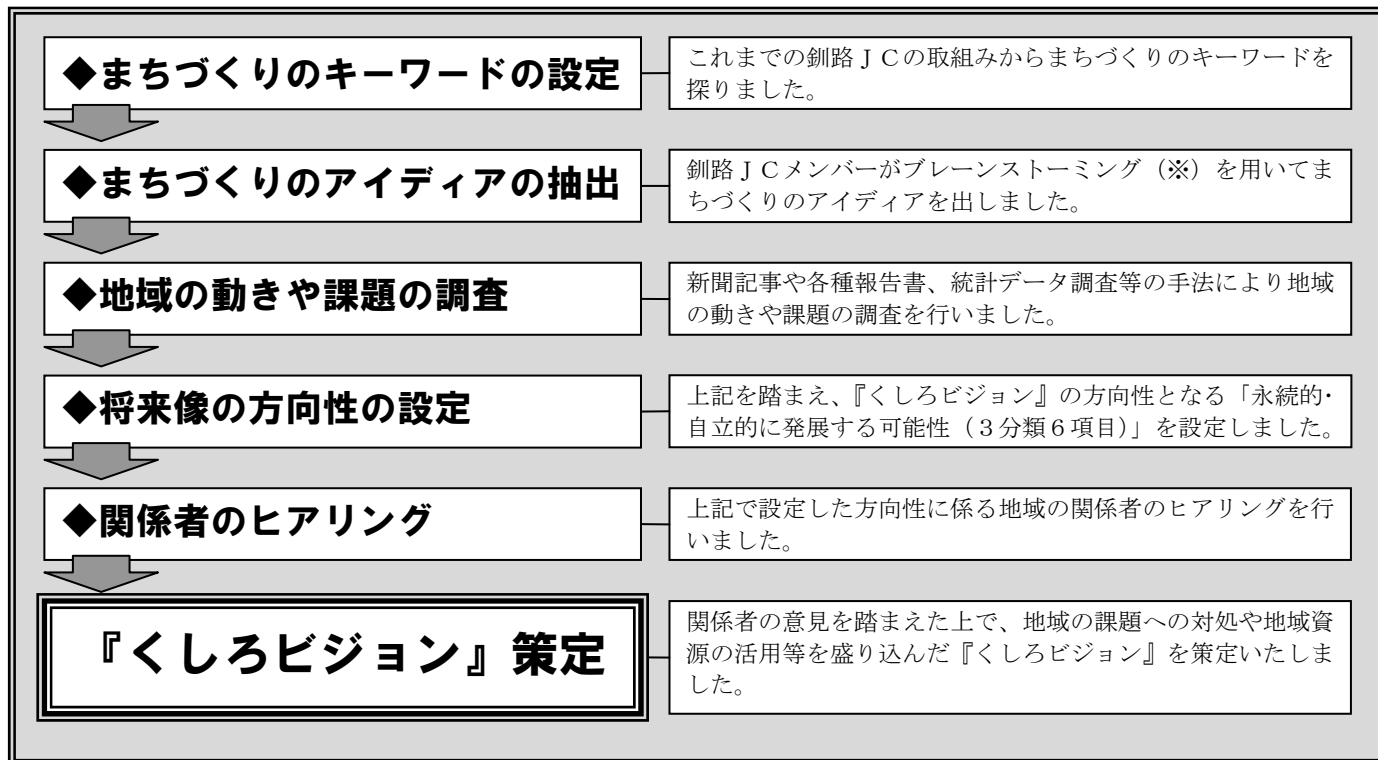
10年・20年後、このくしろに住み続けたいと思われる地域とするために、地域の課題への対処や資源の活用等を切り口として、(社)釧路青年会議所メンバー一人ひとりのアイデアをもとに、地域の関係者から頂いたご意見を取り込んだ中で策定したものであり、今後のくしろのまちづくりの一助にして頂きたく願うところでございます。

最後になりますが、『くしろビジョン』策定にあたりご協力を賜りました皆様に御礼を申し上げますとともに、今後も明るい豊かな社会の創造のために活動・運動を展開してまいりますので、引き続きご指導・ご協力の程宜しくお願い申し上げます、ご挨拶とさせていただきます。

『くしろビジョン』の位置付け

10年・20年後の「次世代に引き継ぐくしろの将来像」として、
(社) 釧路青年会議所が独自に策定したものです。

『くしろビジョン』の策定方法



※ブレインストーミング…自由なアイデアの抽出に有効とされる会議手法。他の意見の否定禁止等の特徴を持ちます。

くしろビジョンの構成

都市としての魅力の向上

1. 地域医療の革新 P 3
2. 未来を支える人材育成 P 4

地域を支える産業の確立

3. 観光産業の確立 P 5
4. 新産業と雇用の創出 P 6

住民の誇りとなるシンボルゾーンの形成

5. くしろのシンボルゾーン形成 P 7
6. 地域毎のシンボルゾーン形成 P 8

《1. 地域医療の革新》

医療系大学の設立～自立した地域医療の確立～

【目指す将来像】

◇地域医療の崩壊

地方の病院や診療所では医師や看護師の確保がままならず、閉鎖に追い込まれる病院が見受けられ、釧根地域では産婦人科医の不足など、生活に直面する問題を抱えています。

◇昭和40年代後半の国立医大誘致運動

釧路市では、昭和40年代後半に国立医大の誘致運動を行いました。後一步のところ旭川市に決まりました。あの時、釧路市に国立医大が開設されていたら、このくしろ地域は大きく変わっていたことでしょう。

◇自立した地域医療の確立「医療系大学の設立」

医療体制の充実した大都市が近隣にないくしろ地域では、自立した医療体制を自ら確立する必要があり、その基となるのが人材育成を行う「医療系大学の設立」と考えます。

《地域医療に対するくしろ地域の声》

平成20年2月の釧路市議会において、市議会議員より釧路公立大学への看護学部設置の提案がありました。釧路市内で開業する医師は、地域医療の崩壊の原因として、地方都市での人材不足を挙げています。



【事業構想】

◇地域医療の担い手育成「医科大学設立構想」

地域医療を担う人材である「医師」の育成のため医科大学の設立を目指します。また、中心市街地に立地することで、まちなかの活性化を図ります。

◇専門的な看護師育成「看護大学設立構想」

近年、看護師は広い知識と技量の他に、より高い専門性が求められています。看護大学の設立により、新たな時代に対応できる看護師の育成を進めます。

【事業手法（案）】

◇既存の医療系大学を誘致する

施設整備・運営に対する支援メニューを用意し、既存の医療系大学を誘致する手法です。

◇新たな学校法人を新設する

くしろ地域を挙げて、新たな学校法人を設立する手法です。釧路公立大学がその事例となります。

◇既存の大学等に学部を増設する

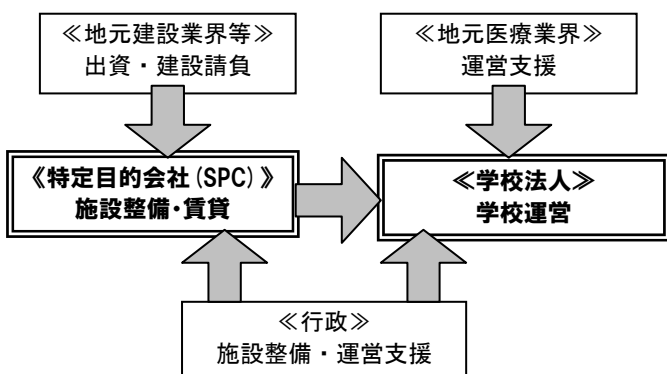
既存の大学の学部増設や短大の四年制化する手法です。新設に比べ手続きの簡素化や初期投資の低減が可能と思われる。

《医療大学誘致の事例（埼玉県深谷市）》

深谷市では、(仮)東都医療大学の誘致に成功し、平成21年4月に開学する予定です(定員は1学年100人、看護学科)。誘致に際し、深谷市は市有地の30年間無償貸与と約7億円の大学設置補助金の支援を行う予定です。

【施設整備・運営スキーム（案）】

地元建設業界等が出資する特定目的会社(SPC)が施設を整備し、運営主体となる学校法人に施設を賃借します。施設整備にあたっては、地元金融機関が長期融資により支援します。運営については、地元医療業界と行政の支援のもと、学校法人が行います。



【実現へ向けた取組み】

◇地域の合意形成

地域医療の現状と将来の問題を検証することで、地域の課題としての認識を持つ必要があります。

◇事業構想の策定

施設整備・運営手法等を盛り込んだ事業構想を策定し、地域としての方向性を定める必要があります。

◇フィジビリティスタディ(事業化調査)

具体的な事業計画を策定し、効果や採算性等から事業化の可能性を検証する必要があります。

【まとめ】

◇地域の課題に目を向ける

目の前にある課題から目をそむけたり、人事だと考えていませんか。地域にとって解決すべき課題は、時として自らの生活に降りかかってくる可能性があるのです。地域の課題を踏まえた新たな目標を掲げ、その実現へ向け活動・運動を展開することが必要です。

《2. 未来を担う人材育成》

食の大学の設立～食の一貫教育の推進～

【目指す将来像】

◇「食財」に恵まれた地域性

くしろ地域は、豊富な魚介や酪農産品の宝庫であり、また水産や農業高校等の食に関する人材育成が進められています。

◇「食財」を活かすひと・まちづくり

物産と人材という「食にまつわる財産」＝「食財」を活かしたまちづくりは、地域の特性を活かした地域の方向性となります。

◇食の専門家の育成

住民誰もが食に興味を持ち、目利きや調理などの食にまつわる能力を身に付け、地元食材を活かし・アピールします。

更に、より専門的な技量や知識を身に付けた「食の専門家」を育て、全国に発信していきます。

《道東地域における食の人材育成の現状》

調理師については、平成17年3月に釧路市内の専門学校が閉校となりました。平成21年度に厚岸水産高校と厚岸潮見高校が統合し、調理関係の学科が開設される予定です。

釧路短期大学の食物栄養専攻では、食材の栄養等に関する専門知識を持った人材育成を進めています。



【将来像に向け、今できること】

◇「食財」に対する意識を高める

- ◆ 生産地見学や調理実習、試食会
- ◆ 生産・加工・流通・販売の見学会
- ◆ 学校での菜園づくり 等

◇「食財」の新たな価値を発見する

- ◆ 料理コンテストや有効活用の研究
- ◆ 休耕地を活用した週末農場の開設
- ◆ 魚のさばき方や調理講座 等

◇「食財」を活かす

- ◆ ワンデイシェフレストランの開設
- ◆ 食財アンテナショップの開設
- ◆ 食財アンテナレストランの解説

《高校生のレストラン(三重県多気町)》

三重県立相可高校の食物料理科の生徒が運営する調理実習施設として、平成14年に「まごの店」がオープンしました。

地域の食材を活用した創作料理の提供を特色とし、将来調理師を目指す人材の育成を推進しています。

【事業構想】

◇食の専門家育成「食の大学設立構想」

料理人や管理栄養士、フードコーディネータ等の食に関する「専門家＝職人」を育て、地域の食財を活かすことができる人材を育てます。

座学と実践を交えて教育する仕組みとして、就労しながら学べる仕組みをつくります。

また、全国から学生を迎え、地域の活性化を進めます。

《目指すは日本のブルターニュ！？》

くしろ地域は、フランス北部のブルターニュ地方と似た気候や土地柄にあるとともに、魚介や酪農産品等の豊かさも似ています。

くしろ産品を活かしたフランス料理の調理師等の特色をもった人材育成が考えられます。

◇食財活用研究拠点「食の大学院設立構想」

食材の特徴を研究し、新たな用途や新製品の開発を進める機関を設立します。

◇食の一貫教育「食財教育推進構想」

食に関する知識や技術を小さな頃から楽しく身に付けることで、将来の食の専門家への基礎をつくるとともに、料理を作る・食べてもらう楽しさを知ってもらい、情操教育を進めます。

また、大人向けに一生の趣味として「食」と関わり・こだわりを持つ人材を育てます。

【実現へ向けた取組み】

◇「食」を活かすまちづくりの合意形成

食財に恵まれた地域に生まれ育っていることを認識し、その特性を活かしたひと・まちづくりの必要性を、地域として認識することが必要です。

◇食の人材育成プログラム

「くしろ食財の総合計画」の策定

幼少時から大人まで一貫して食財教育を行い、食財に対する意識の高い人材を育てるための総合戦略を策定することが必要です。



【まとめ】

◇人材育成がまちづくりの方向性を決める

まちづくりの方向性を考えるとき、どのような人材を育てるかが大きく影響すると考えます。

例えば、工業地域は工業技術に関する人材を育てるなど、地域特性に応じた人材育成に取組む傾向が強いです。

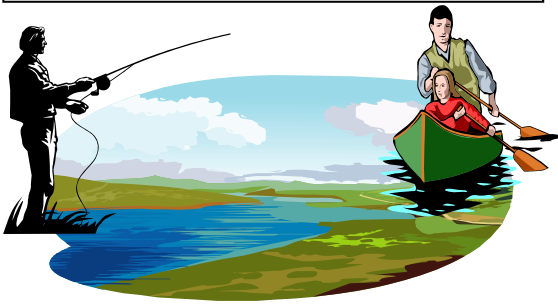
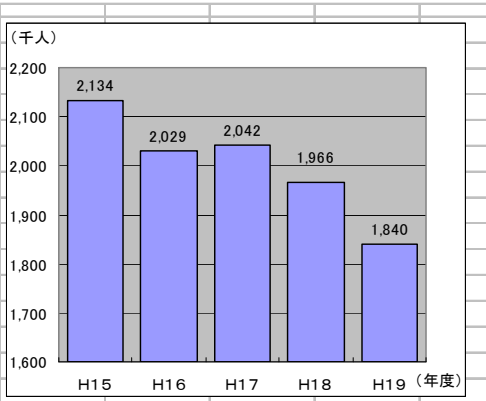
◇変わらない地域特性「食」と人材育成

くしろ地域について考えると、「食」という大きな特徴を見出すことができます。多様な食材の産地であることは、生産や加工・調理等の人材育成の素地であり、その食を活かす人材の育成は、くしろ地域のまちづくりの方向性となると考えます。

《3. 観光産業の確立》

宿泊重視型広域観光の推進

【くしろ地域の宿泊客数の推移】



【目指す将来像】

◇宿泊客の経済効果

くしろ地域の宿泊客数は、平成19年度で年間約184万人と近年、減少傾向にあります。

日本銀行釧路支店は、釧路・根室・十勝管内の宿泊客10人に1人が1泊延ばすことで900人分の雇用を産み出すと報告しており、宿泊客数の増減は地域経済に大きな影響を与えることがわかります。

◇水にまつわる観光資源の開発

釧路川や阿寒川、音別川、阿寒湖や摩周湖、屈斜路湖そして前面に広がる太平洋、多くの温泉等の水にまつわる資源に恵まれたこのくしろ地域において、「水」をテーマとした観光圏「みずの杜」の形成が可能だと考えます。

◇広域観光圏の形成

くしろ地域における三大宿泊地(阿寒湖畔、弟子屈、釧路市街地)を中心とした宿泊重視の観光地の形成と、川・湖・海・温泉といった「水」をキーワードとした観光資源の創出を実現し、広域的な観光圏による宿泊客の倍増を実現します。

《NPO 法人阿寒観光協会まちづくり推進機構の取組み》

宿泊客の増大を目指し、夜間のイベントとして「千本タイマツ」や「イオマンテの火まつり」等の地域性の高いイベントを実施しています。

また、フライフィッシングフェスタ2008を開催するなどアウトドアレジャーの拠点としての観光振興にも取り組んでいます。

【事業構想】

◇「くしろ広域圏みずの杜構想」

◆フィッシングレジャー特区(規制緩和)

宿泊期間の長いフィッシングを目的とした観光客の増大を図るため、4・5月の川でのサクラマス釣りや防波堤での釣りを解禁するなどの規制緩和を進めます。

また、ライセンス制度を導入するとともに、くしろらしいフィッシングスタイルを全国・全世界に発信します。

◆リバーサイド駐車帯の整備

フィッシングやカヌー等に対応した河川や湖畔の駐車帯整備を推進し、アウトドアレジャーの環境を整備します。

◆景観の整備・発信

阿寒湖や摩周湖、世界三大夕日と言われる釧路港の夕日等の水にまつわる景観スポット整備とその発信を展開します。

◆保全運動の展開

く豊かな水資源を守るため、水源の保全・美化や魚資源の保護のための放流・フィッシングルールづくり等を進め、守りながら活用する施策を展開します。

◇「くしろ広域圏ゆったり周遊観光地構想」

◆くしろ三大宿泊地周遊プランの導入

泊食分離や湯めぐり共通クーポン等の長期滞在に資する取組みを広域的に展開することで宿泊日数を延ばします。

◆くしろ広域圏周遊バスの運行

三大宿泊地及び周辺観光地を周遊する定期バスをクリーンエネルギーを使って運行。

◆長期滞在用宿泊地の整備

コンドミニアムの整備や別荘の共同保有化等の導入により、宿泊能力の拡充を図るとともに、新たな顧客層を開拓します。

【実現へ向けた取組み】

◇くしろ広域観光圏整備促進会議の設立

行政区域や職種の垣根を越え、広域的且つ多様な事業の展開を可能とする組織が必要です。

◇事業構想・事業計画の策定

観光客のニーズに応えた広域的且つ多様な事業を展開するため、事業構想や事業計画を策定することが必要です。

◇補助事業等の行政支援の活用

平成20年7月に観光圏整備促進法が施行され、広域的に連携した観光圏の整備に対する国の支援が打ち出されました。同法に基づく支援制度等を有効に活用することを検討することが必要です。



【まとめ】

◇広域連携による取組みの可能性を探る

自然・食・景観・レジャー等の多岐にわたる観光資源と大きな3つの宿泊地を有するくしろ地域ではありますが、それぞれが独立しており、効果的な観光振興が行われていない感が否めません。

あらゆる観光資源を有機的に結び、広域的に取組むことで、新たな観光振興策の道が開けると考えます。

《4. 新産業と雇用の創出》

新エネルギー産業の創出～永続的な産業と雇用の創出～

【目指す将来像】

◎地域特性を活かした

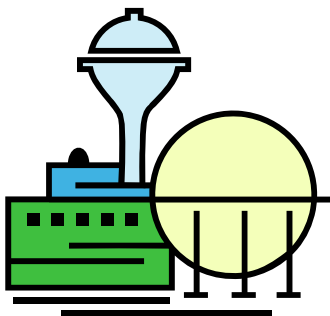
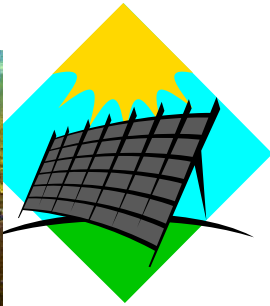
新エネルギー産業の創出

くしろ地域は、日照時間が長い・降雪日数が少ないといった太陽光の活用に適した地域特性を有しております。

また、水産都市として「海」に関するノウハウを蓄積してきました。豊かな海洋資源を活かした産業創出の可能性があると考えます。

◎雇用の創出

雇用環境の厳しい状況にある中、新エネルギー産業の創出により新たな雇用の創出し、地域経済の活性化を図ります。



【日照時間(全道順位)】

	気象管区	日照時間
1位	帯広	1,950 h
2位	釧路	1,897 h
3位	網走	1,854 h
4位	広尾	1,769 h
5位	浦河	1,730 h

※平成18年度データ

【雪日数(全道順位)】

	気象管区	雪日数
1位	釧路	65日
2位	帯広	79日
3位	広尾	90日
4位	苫小牧	104日
5位	根室	105日

※平成18年度データ

【事業構想】

◇「太陽光発電畑整備構想」

休耕地等に大規模な太陽光発電パネルを設置した発電所を誘致します。現在、北海道電力が全道での展開を企画中であり、くしろ地域の日照時間が長い・積雪が少ないといった地域特性は全道でも優位性が高いと考えられます。

併せて、太陽光発電パネル製造工場等の誘致を進め、関連産業の集積と更なる雇用の創出を推進します。

◇「水産バイオマス構想」

昆布等の海藻を発酵させてバイオエタノールやメタンガスを生産する水産バイオマス生産プラントを整備します。

水産庁が平成19年度より5ヶ年かけて技術開発を進めております。

生産効率が依然低い状況にありますが、海洋国家として期待されている技術であり、くしろ地域がこれまで蓄積してきた海洋に関する技術・ノウハウを活かすことができる可能性があります。

《具体的な事業(案)》

- ◆ 人口漁礁の設置による「海の畑」整備
- ◆ 洋上生産プラントの整備
- ◆ 陸上へのパイプラインの整備
- ◆ 陸上での貯蔵タンクの整備

《水産バイオマス》

水産庁が「水産バイオマス資源技術開発事業」として平成19年度から5ヶ年で取組んでいる技術であり、(財)水産総合研究センターが東京海洋大学(能登谷正浩教授)等との連携により研究を行っております。

日本は国土面積が小さいのですが、排他的経済水域の面積は世界第6位であり、海洋を利用したバイオマス生産技術の開発は日本のエネルギー事情に大きく影響するものと考えられています。

【実現へ向けた取組み】

◇地域特性の調査研究

エネルギーに関する地域特性を把握し、地域の優位性のデータ化を行う必要があります。

◇関係機関との協議・調整

地域の優位性を踏まえた上で、北海道電力や水産庁等との協議を行い、実現の可能性を追求します。

◇事業構想の策定

関係機関を含めた協議会を設立し、事業構想を策定します。

【まとめ】

◇情報のアンテナを高く持つ

様々な研究機関等で取組まれている先進的な技術開発の中には、くしろ地域の特性に適したものがあるかもしれません。

アンテナを高く上げ、広い視野を持って地域の将来を考えることが、新たなビジョンを創り出す素地となると考えます。

《5. くしろのシンボルゾーン形成》

自然・歴史・文化を伝える釧路川の再生

【目指す将来像】

◇誰もが自慢できるシンボル

「釧路川」の実現

くしろ地域の歴史を紐解いたとき、釧路川は地域の発展に多大な貢献をした大いなる資源であることがわかります。

今現在も豊かな水源として生活や産業を支えるとともに、イトウやキタサンショウウオ等の希少な生物の生息地でもあります。また、カヌーやフィッシング等のレジャースポットとして活用されています。

釧路地域を支える釧路川にスポットを当て、地域に住む者がその活用や保全を通し、誰もが自慢できるシンボルとしての「釧路川」を実現します。

《釧路川の概略》

屈斜路湖を源流とした全長154kmの一級河川であり、途中に堰やダム等がないことで有名です。

古くは現在の弟子屈町で産出された硫黄や木材の運搬に利用された歴史を持ちます。

釧路開発建設部は、平成20年3月に釧路川水系河川整備計画を策定し、釧路川の整備の在り方を示しました。

《ガイドライン策定》



《川の駅(上中流域)》

《保全運動(全流域)》

《釧路川流域図》

《市街地キャンプ場(下流域)》

《水上レストラン(下流域)》

【事業構想】

◇釧路川上中流域活用構想

◆川の駅の整備

釧路川は途中にダムがないため、カヌーを楽しむには絶好のポイントとなっています。キーとなるポイントに自然を活かした川の駅(塘路駅や岩保木水門付近等)を設置することで、カヌーイストにとって聖地となるよう取組みます。

◆リバーサイド駐車帯の整備

カヌーやフィッシングを楽しむ者にとっての悩みの種の一つが駐車スペースです。河川周辺に適切な駐車帯を整備することで、適正な釧路川の活用を推進します。

◇釧路川下流域(釧路市街地)活用構想

◆夕日の見えるオートキャンプ場の整備

釧路市街地の釧路川河畔に、電源やトイレ、水場等の最低限の設備のオートキャンプ場を整備します。また、世界三大夕陽を見れるキャンプ場としてPRします。

◆末広リバーサイド飲食・商業ゾーンの形成

釧路川と末広歓楽街をつなぐリバーサイドを飲食・商業ゾーンとして整備し、くしろの新たな魅力づくりを推進します。

◆水上レストランの開設

親水性の高い水辺空間を活かしたスポットとして、末広歓楽街に面した釧路川上に水上レストランを開設します。

《水上レストラン》

営利を目的とした河川の使用は認められなかったが、国土交通省は河川敷地占用許可準則の一部改正により、民間による飲食店や売店などの利用が可能となりました。

大阪府では水上カフェの実現に向け国土交通省に規制緩和区域の指定を申請したところでした。

◇釧路川保全活用推進機構設立構想

◆釧路川活用ライセンス制度の導入

フィッシングルールを定めた管理区域や一部禁漁区の導入等の釧路川を活用したレジャーに関するライセンス制度の導入とともに、ライセンス料を活用した資源管理や保全運動を展開します。

◆釧路川アウトドアレジャーガイドラインの策定

カヌー利用のガイドラインのように、フィッシングにおいても、ガイドラインを策定するなど、アウトドアレジャー全般のガイドラインを策定し、守りながら活かす釧路川を実現します。

◆釧路川保全運動の展開

流域及びリバーサイドのゴミ拾いやゴミを捨てないマナー運動等の取組みを展開し、身近なシンボルとしての意識向上を図ります。

【まとめ】

◇まちづくりのアイディアは無限

釧路川を地域住民にとってのシンボルゾーンとすることを考えた時、その活用や保全のアイディアは無限にあります。

もちろん実現の可能性が低いものもありますが、今の時代は、規制緩和や新たな制度の創設等において、地域が自ら考える独自の施策が重要となっています。

出来るわけがないとあきらめるのではなく、どうすればできるのかを考えることが必要なのです。

《6. 地域毎のシンボルゾーン形成》

くしろの西の玄関口「おんべつ道の駅」構想の推進

【「おんべつ道の駅」構想が目指す将来像】

新たな交流ゾーンとしての「おんべつ道の駅」

◇くしろの西の玄関口「おんべつ」としての機能

釧路市音別町地区は、札幌・帯広方面からの流通経路である国道38号線沿いにあり、くしろ地域の西の玄関口としての立地にあり、その特性を活かした道の駅整備を進めます。

◇新たな「おんべつ」のシンボルゾーンとしての機能

地元産品の販売やくしろ地域の情報発信、まちづくり組織やボランティア団体の活動拠点、イベント広場等の地域に住む者が「くしろ」・「おんべつ」に誇りを持てる交流拠点としての整備を勧めます。

◇地域の雇用拡大に繋がる機能

屋台や青空市等の取組みによりチャレンジする人を応援する仕組みをつくり、新たな事業創出や雇用の確保を進めます。

また、障がい者による施設の保守・管理やテナントの運営等により、障がい者の雇用の確保を進めます。

《くしろ地域の道の駅》

- ◆ しらぬか恋問(白糠町)
漁協の直売所を併設し物産品の販売に力を入れています。近接してコンビニがあることで、集客力が増えています。
- ◆ 厚岸グルメパーク(厚岸町)
魚介市場やレストランの充実により、地場産品の飲食を魅力とした道の駅です。
- ◆ 阿寒丹頂の里(釧路市阿寒町)
釧路市阿寒国際ツルセンターが近接しており、地域のシンボルの一つである丹頂を活かした観光地となっています。
- ◆ 摩周温泉(弟子屈町)
釧路川に隣接し「川の駅」としてのカヌーの発着場にもなっている道の駅です。



【実現へ向けた取組み】

おんべつ道の駅研究会の取組み

◇地域での合意形成

音別町の有志が平成20年6月に研究会を設立し、くしろ地域の情報発信等の機能を担うものとして、くしろ地域の西の玄関口である音別町地区に道の駅を設置することを検討し基本構想を策定しています。

◇客観的な観点での地域特性の把握

研究会では、コンサルタントや有識者等を招き入れ、構想全体に外部からの意見も取り入れています。

◇フィジビリティスタディ(事業化調査)

地域の特性を踏まえ、機能や立地、事業性や地域住民の関わり等を研究し、事業化後の運営体制も含めた組織の在り方を検討しています。

【事業化を支援する取組み(案)】

◇事業構想の策定支援

客観的に音別町地区の特性を把握し、活かすことのできる資源等を調査・分析し、事業構想策定の一助とします。

◇機運の醸成支援

この取組みを広く発信することにより、釧路市全域での合意形成を推進します。

【まとめ】

◇まちを創るのはひと

まちづくり団体が多数ある中、他団体の活動を支援することもまちづくりだと考えます。ひとのつながりを大切にしながら、地域の将来像を考え、行動することが必要なのです。

◇ひとを育てるのはまち

まちづくりに積極的に関わることで、互いを知り地域を知ります。そこで生まれたひとのつながりや知識・経験は、ひとを大きく成長させ、新たなまちづくりに役立つと考えます。



未来を創る・・・（実現へ向けて）

【発想を実現へ】

◇個々人の問題意識

目の前の課題に一人ひとりがしっかりと目を向け、広く情報を集めて対応策や有効策を考える。その意識と行動が必要です。

◇個人のビジョンを組織のビジョンへ

素晴らしい発想でも実現できなければ「絵に描いた餅」となります。仲間と一緒により良い将来像を創りましょう。仲間の理解と協力のもと組織としてのビジョンとすることが必要です。

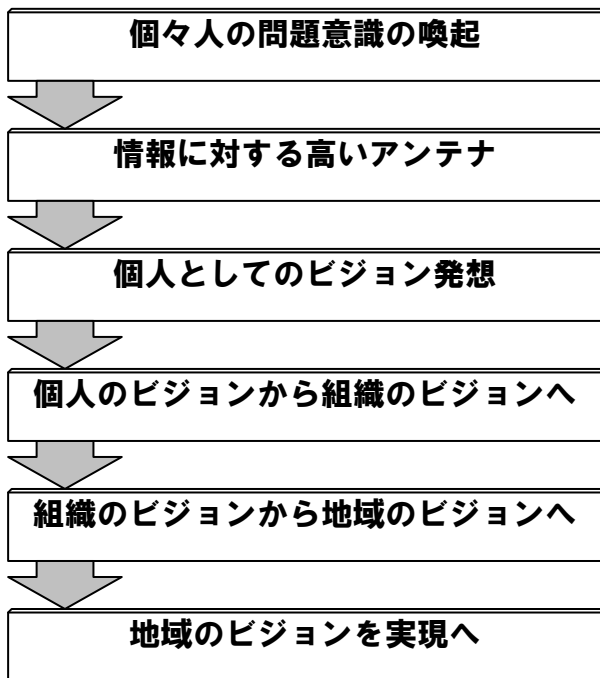
◇組織のビジョンを地域のビジョンへ

組織のビジョンは、その実現を考えたとき更に多くの人たちの理解が必要となります。

地域に影響を与える力を持ったビジョンとするためにより多くの人たちと語り、地域のビジョンへと発展させることが必要です。

◇地域のビジョンを実現へ

ビジョンの実現には、時間、労力、資金、人材等の多くのものが必要となりますが、一番必要なのは「実現するという強い意思」です。将来像の実現へ向け「あきらめない心」を持ち続けることが必要です。



【青年会議所の役割と使命】

「明るい豊かな社会を築き上げる」

◇まちづくり組織としてのJC

Jaycee(青年会議所会員)の目標は「明るい豊かな社会を築き上げる」ことにあります。

その為に志を同じくする者が集い・力を合わせ活動・運動を展開するまちづくり組織なのです。

◇個の力の集合体

青年会議所は、仕事も住む場所も異なる様々なメンバーで構成されています。

色々な考えをぶつけ、個々の力を合わせて「明るい豊かな社会を築き上げる」という大きな目標の実現のために、日々、ひとづくり・まちづくりに励む組織なのです。

◇歴史とひとのつながり

永きに亘る歴史を有する青年会議所は、その歴史の中で地域に多くの人材を輩出してきました。

今現在もまちづくりに活躍する諸先輩とのつながりを持ち続ける青年会議所は、まちづくりに大きく貢献できる組織なのです。

【後書に代えて】

本年度、政策室くしろビジョン委員会は、『くしろビジョン』策定の過程において、くしろの将来像について、地域の皆様と真剣に意見を交わす機会をいただきました。

その中で、「個々の考えがまちを創る」ということを感じました。一人ひとりの素晴らしい考えやアイデアをまちづくりに活かすために、地域の皆様との対話を大切にしながら今後もまちづくりに邁進してまいります。

ご協力いただきました皆様に改めまして御礼を申し上げます。

2008年度(社)釧路青年会議所
政策室 室長 大森一道
くしろビジョン委員会一同

発行日 平成20年12月

発行者 社団法人 釧路青年会議所 理事長 中島谷 友一郎

編集責任者 社団法人 釧路青年会議所 政策室 くしろビジョン委員会

委員長 厚海 洋幸 委員 千田 貴裕 委員 丸山 達也

副委員長 工藤 健司 委員 為国 克彦 委員 安田 一行

委員 上見 国敏 委員 中村 司 委員 山内 一幸

委員 篠原 恒也

釧路市大町1丁目1番1号 道東経済センタービル5階 (TEL 0154-42-1121)

ホームページURL <http://kushiro-jc.jp/> (『くしろビジョン』をご覧ください)